

無線で未来を描き続けるアンテナ・伝搬並びにその関連システムの論文特集の発行にあたって

無線で未来を描き続けるアンテナ・伝搬並びに
その関連システムの論文特集編集委員会

委員長 広川 二郎



近年、急激な国際化に伴って、論文誌も英文のニーズが高まり、またインパクトファクターも高い論文誌が着目されるようになってきた。一方、和文論文誌は年々投稿数が減っており、インパクトファクターも存在していない。しかしながら、母国語でニュアンスまでも正確に伝え、素晴らしい論文を国内に読みやすくアピールできる性格をもち備えている。更に特集では、厳しく発行期限を決め、編集委員、査読委員の絶大な協力を得て、極めて迅速に論文化を実現できる。このように、学術の発展に大きく寄与できる性格をもつため、今年度も和文特集を企画することとした。

アンテナ・伝搬の分野では、第5世代移動通信などの無線通信システムの「未来を描き」続けるために大きな貢献をしてきた。本特集では、アンテナ・伝搬の技術並びにそれらと関係を有する無線システムの最新の研究成果について、論文を募集した。本特集は、アンテナ・伝播研究専門委員会（A・P研）が中心となって企画し、和文論文誌Bの毎年9月号に掲載しているアンテナ・伝搬関連特集（AP特集）の14号目となる。

今回の特集には、論文23編（研究会推薦論文2編を含む）・レター3編の投稿があった。厳正な査読の結果、最終的に論文12編・レター2編が採択された。昨年度は投稿数及び採録数ともに、例年のAP特集号に比べるとやや少ない数であったが、今年度の件数は、例年のものと同程度に回復した。その理由としては特集テーマが時代にマッチしたことのほか、関連する分野の

研究専門委員会への投稿呼びかけやCall For Paperの研究会技報への折り込み配布など、地道な宣伝活動が考えられる。

これら14編の一般投稿論文・レターに加えて、本特集では3編の招待・解説論文を掲載した。マルチアンテナシステムの生体センシングへの応用、モバイル通信端末用小形アンテナの設計課題とその解決技術、電磁界から見た結合共振型無線電力伝送の本質に関して、まさに未来を描くことができるアンテナ・伝搬及び関連システムに関して執筆をお願いした。いずれも、その分野の最前線で活躍されている研究者の方々に執筆頂いた。これらの論文が、読者が無線の未来を考えていくヒントとなれば幸いである。

最後に、本特集を発行するにあたり、投稿頂いた著者の皆様、査読に協力頂いた査読委員の皆様、企画及び編集作業に尽力頂いた編集幹事・編集委員の皆様、そして本会事務局の皆様深く感謝する。

ひろかわ じろう
広川 二郎（正員：フェロー）

昭63東工大・工・電気・電子卒。平2同大学院修士課程了。平2東工大・工・助手、平8同大助教授、平19同大准教授、平27同大教授、現在に至る。博士（工学）（平6、東工大）。平6～7スウェーデン・シャルマー工大にて博士研究員。導波管スロットアレーアンテナ、ミリ波アンテナの研究に従事。平11～15本会通ソ和文論文誌編集委員、平16～19本会通ソ英文論文誌編集委員、平18～22本会通ソ和文マガジン編集委員、平21～23本会アンテナ・伝播研究専門委員会幹事。平8本会学術奨励賞、平19本会通ソ論文賞、平21本会通ソレター賞、平24IEEEフェロー。

